

【記者からの質問】

西日本新聞／GWまでの休業要請の取り組みの効果を、どう分析してこの計画に反映したのか。

知事／クラスターは、それぞれ追跡した。その結果、ウイルスはつながっていると実感。現在、白石町関係は、全体としての入口がつかっていないのが問題。引き続き調査する。緊張感をもち、何がどうなるかを観察しないとけない。その思いから、段階的に対応することになった。

西日本新聞／休校、休業要請の効果は？

知事／2週間前のことなので、今日から3日後ぐらいで効果が出ると思う。大きな関心を持ち、推移を観察したい。

西日本新聞／5月6日までの休業要請は、パチンコ店に県外の人があることを防ぐ目的だった。休業要請する前と、7日に解除する方針を決めた今の状況に変化があったと捉えているのか？

知事／県境の問題は維持しないとけないと思っている。福岡県は特定警戒地域なので、福岡県民が県境を越えることはない福岡県知事から聞いている。パチンコ店の問題は、各県が意識している。パチンコ遊技店組合の皆さんが、店からコロナウイルスを出さないという思いで今回の対応策を考えてくれた。

共同通信／接待を伴う飲食店の実態を、県が巡回して確認する作業が必要かどうか。

知事／個別の確認は難しい。しかし、訴えることで県民も意識してくれる。クラスターが2件起きてしまった。休業要請が続くことで、十分訴求でしていきと思う。ナイトクラブとかパブとか名前がたくさんあり、議論を重ねた。カウンターの中でマスクをすればいいのではないかと。このイラストで、だいたいわかってもらえると思う。

対象として絞られているが、20日まで休業要請に応じてほしい。

共同通信／再開できる店で、売り上げが落ちる場合の対策を考えているのか？

知事／生活様式や県民の意識が変わろうとしている。これからは、どんな業態がいいのか、各店舗が考えていくことが大事。その状況を踏まえて、応援していきたい。

共同通信／横につくお店が21日から再開すると、福岡県からの流入が考えられる。福岡県への呼びかけは？

知事／客、スタッフを含め、流入はあるだろう。全国どこでもその問題はある。福岡市、久留米市の状況を注視しながら考えたい。

朝日新聞／14日の学校、21日の接待を伴う飲食店の再開。この日に設定した理由は？

知事／段階を追っていこうということ。まず、GW中にめどを立て、6日までだと。7日から民間の店舗や施設が再開し、11日に県有施設が再開する。その環境の中で学校再開を迎えたい。それから、休業要請の効果を確認して14日を迎えたいと思った。曜日も考え、2日行って、土日を迎える14日に決めた。

朝日新聞／現時点での感染者数の増え方、倍化速度、感染経路不明率について全体的な評価を。

知事／最初のころは、県外からだとすぐわかったし、封じ込めもできた。クラスターも、嬉野の医療センターや学校

が全員陰性だった。詳しく言えないが、武雄のナイトクラブの事案もほかの事案もつながっている。武雄タクシーの件が1つ孤立してはたどり着かない。人が行き来する以上、ゼロはあり得ない。どこかで出たときにしっかり対応すると心得ている。健康福祉部の現場の人たちは、大変な思いをしている。県民の命を守るため、懸命に頑張っている。我々も、覚悟をもって、全力で向き合えないといけない。

読売新聞／組合加盟でないパチンコ店への対応は。店舗にお任せなのか？

知事／加盟していない7店舗には、個別に県のチームで同様の措置ができるよう交渉したい。

読売新聞／県外からは、大型商業施設にも大勢来る。そこへの対応は？

知事／県境問題はどこにもある。全国的に数字は減っているが、ぶり返しを恐れている。元の生活が戻る中、県境の問題はまた出てくる。よく注視して、次の対策を立てていくことが必要。福岡県の数が減ってきた。九州で感染経路不明をなくし、モデルケースをつくりたい。そうすれば、個別に対応できるようになる。

読売新聞／接客を伴う飲食店の再開が21日。政府の対処方針は、31日まで外出の自粛を求めている。その兼ね合いをどう考えるのか？

知事／いろんな意見を聴いている。人は、先に光が見えないと暮らせない。5月末はあまりに遠い。何とか光が遠くに見える2週間にした。

STS／これまでの1弾から6弾で、金額変更はあるのか？

知事／1から6は変更なし。3から6は、休業は関係ない。これからは、新しい社会に向かって、それぞれの業態で頑張っていくようになる。有田陶器市も今までと違うビジネスが始まり、手ごたえがある。

飲食店もテイクアウトやデリバリーと、新しい形になっているところもある。県民生活も含め、チャレンジしている人に支援をしていく。文化スポーツ系も励まし、今後きめ細かく応援していく。限られた予算でなんとか対応していきたい。

記者／感染リスクがある中で、段階的でも日常に戻す決断はなぜ？

知事／コロナウイルスはゼロにならない。起きたときの対応をしっかりとっていくということ。社会経済生活を作る上で、乗り越えなければならないこと。起きたら全力でたたかす。入院した人には、治療に対して応援する。生活はコロナだけではない。

個人的見解だが、地球が警鐘を鳴らしている気がする。人が生きていくうえの問題提起をされているように感じる。佐賀県は、資源をいろいろ持っている県。だから、我々がどう生きていくのかを示すグランドデザインを求められているようで身が引き締まる思い。